

平成22年度林業普及指導員 東北・北海道 ブロックシンポジウム

1 開催概要

平成22年9月21日から22日にかけて、林野庁の主催により林業普及指導員東北・北海道ブロックシンポジウムが青森県青森市で開催されました。

このシンポジウムは、林業普及指導員が日頃取り組んでいる普及活動について、決められたテーマに沿って発表し、互いに情報の共有を図り、普及活動の品質を向上させようとするもので、東北6県と北海道を合わせた7道県が開催地を持ち回りで開催しているものです。

最も優秀な発表事例については、平成23年11月に東京で開催される全国シンポジウムへの出場権が与えられることから、各道県内での活動の中でも選りすぐりの優良活動事例が報告されました。

シンポジウムでは事例発表のほか、現地視察も行われ、平成19年度全国林業経営推奨行事で大日本山林会長賞を受賞した、青森市の小笠原義一さんのスギとヒバの二段林によ

る山林経営などを視察しました。

また、日程の最後には、林野庁との「人材育成意見交換会」が行われ、創設予定のフォレストア制度などについて、林野庁担当者とは各道県林業普及指導員の間で、活発なやりとりがありました。



2 活動事例発表

今年度の発表テーマは、「森林吸収量目標の確実な達成に向けた普及指導の取組」とされ、各道県から活動事例の発表がありました。

山形県 村上総合支庁

鏡 美幸さん

「広葉樹林の保全・健全化への取組み」

ナラ枯れの被害対策の指導や広葉樹林整備を特用林産物生産につなげるなど、森林所有者の森林整備意欲を喚起する取組み。

福島県 会津農林事務所

豊田 広幸さん

「会津産材の利用推進に向けて」

地域材の利用推進に向けて、会津百年のスギなどを使った家づくりや低質材をチップ化する仕組みづくりにより、森林整備を推進する取組み。

青森県 下北地域振興局

春田 嘉奈子さん

「下北地域におけるクマハギ防除対策の取組み」

クマハギ（熊がスギの皮を剥ぐ被害）の有効な防除方法を調査し、効果的な方法を普及することにより、森林所有者の経営意欲低下を防ぐ取組み。

岩手県 県南広域振興局

小原 誉さん

「未利用間伐材の利用に向けた取組み」

手入れの遅れた林分を団地化し、集約化施策により間伐を実施。出材されたスギ低質材による木質ペレット製造を成功へ導いたコーディネートへの取組み。

秋田県 山本地域振興局

佐藤 正仁さん

「山本地域における林地残材利用の取組みについて」

間伐後の林地残材の搬出に助成し、能代バイオマス発電施設と連携することにより、森林所有者の意識が高まり、自ら、集材・運搬するようになった取組み。

宮城県 気仙沼地方振興事務所

大森 幸男さん

「失われた松林の復元」

松くい虫被害で失われた松林の復元活動を行う、気仙沼市大島住民の森づくりを抵抗性苗木の供給や技術指導により支援した取組み。



北海道 後志総合振興局

辰見 政則さん

「提案型集約化施業の普及・定着化による森林整備の促進」

森林所有者への働きかけによる利用間伐モデル団地の設定や関係者の合意形成のための協議会設立支援、施業集約化の必要性の理解を得るための研修会の開催など間伐推進のための総合的な取り組み。

以上の発表に対して審査委員による審査が行われた結果、北海道の発表が最優秀賞に選ばれ、全国シンポジウムの代表に決定しました。

岩手県の発表は、テーマに即した林業普及指導員の独創的な取り組みとして高く評価されましたが、惜しくも最優秀賞を北海道に譲った感じでした。

開催県である青森県の歓迎のあいさつの中で、平成22年12月4日の東北新幹線全線開業の話があり、「皆様のお越しをお待ちしております。」とのことでした。

林業技術センター普及班

019(698)1337